



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第7号
(7月6日～7月26日)

令和5年7月5日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

果実肥大は順調！
仕上げ摘果を急ごう！！
腐らん病の処置を適切に!!!

I 概要

7月1日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

仕上げ摘果を終えていない園地では、できるだけ早く適正な着果量とする。仕上げ摘果を終えた園地でも随時着果量の見直しを行う。

マメコバチの活動終了後の巣箱は回収し、小屋の軒下などにまとめて保管する。

「7月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月16～17日頃に実施する。降雨前の散布を徹底し、散布むらが生じないように基準散布量を守る。

枝腐らんは見つけ次第切り取り、胴腐らんは再発病斑を含め、適切に処置を行う。ハダニ類は発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4966

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

○果実肥大

(7月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	5.6	5.7	5.1
	平 年	4.7	4.9	4.2
	前 年	5.2	5.2	4.8
	平年比	119	116	121
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	5.3	-	4.5
	平 年	4.5	-	3.9
	前 年	5.3	-	4.5
	平年比	118	-	115
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5.9	5.2	4.9
	平 年	4.8	4.6	4.0
	前 年	5.3	5.1	4.1
	平年比	123	113	123
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5.5	-	5.3
	平 年	4.7	-	4.0
	前 年	4.9	-	4.3
	平年比	117	-	133
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5.9	5.7	4.9
	平 年	4.5	4.4	3.9
	前 年	5.5	5.1	4.4
	平年比	131	130	126

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 作業等の進み (7月3日現在)

ふじの仕上げ摘果や袋かけ、徒長枝整理が行われている。

(3) 病害虫の動き

(7月3日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 殺菌剤無散布の県予察ほでの新梢葉発病葉率 (スターキング) (本年: 6月30日7.9%、平年: 6月30日0.7%)
褐斑病	感染継続中
腐らん病	まもなく粗皮感染が始まる
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 殺菌剤無散布の県予察ほでの新梢葉発病葉率 (ふじ) (本年: 6月30日72.2%、平年: 6月30日35.5%)
モモシクイガ	越冬世代成虫の羽化及び産卵継続中
ナシヒメシクイ	第1世代成虫の羽化継続中
リンゴハダニ 及びナミハダニ	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	越冬世代成虫の羽化ほぼ終了 (成虫誘引終息 平年: 7月6日)
キンモンホソガ	第2世代幼虫主体
クワコナカイガラムシ	越冬世代成虫出現、まもなく産卵始まる

2 作業の重点

(1) 摘果

摘果が遅れたり、着果量が多いと、玉伸びだけでなく花芽形成などに悪影響を及ぼすので、仕上げ摘果を終えていない園地では、できるだけ早く適正な着果量とする。仕上げ摘果を終えた園地でも、随時着果量を点検し、見直し摘果により肥大の劣る果実やさび果、変形果などを主体に摘み取る。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)	着果率 (%)
紅玉	3頂芽に1果	33
つがる、ジョナゴールド	3.5頂芽に1果	29
ふじ、王林、早生ふじ、トキ、シナノゴールド、 きおう、金星、シナノスイート、未希ライフ、 ぐんま名月、星の金貨、千雪、夏緑、恋空、祝、花祝	4頂芽に1果	25
北斗	4.5頂芽に1果	22
陸奥・世界一	5頂芽に1果	20

(2) 袋かけ

ふじは有袋にすることで、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要なため、有袋栽培に積極的に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終わるようにする。

(3) マメコバチの巣箱の回収と管理

マメコバチの活動終了後の巣箱は7月上旬頃に回収し、小屋の軒下などにまとめて保管する。その際、コナダニの発生状況を確認し、必要に応じて高温処理法などにより駆除する。

なお、ネズミの被害や雨水の跳ね返りを避けるため、地面からできるだけ離す。また、箱の積み重ねや雨除けにも配慮し、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

(4) 「7月半ば」の薬剤散布

「7月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月16～17日頃実施する。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

前年にシンクイムシ類の被害がなく、周辺に放任園など発生源の見られない園地では、「7月初め」にピレスロイド剤を使用した場合は、今回の「7月半ば」のシンクイムシ類防除剤を省略できる。

「7月半ば」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	7月16～17日頃	アントラコール顆粒水和剤	500倍
弘前		又はパスポート顆粒水和剤	1,000倍
三戸		又はオキシラン水和剤	500倍
		又は有機銅剤	
		(キノンドー顆粒水和剤	1,000倍)
		オキシンドー水和剤80	1,200倍

炭疽病の発生が例年多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、パスポート顆粒水和剤、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

褐斑病の発生が前年に多かった園地や低温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、アントラコール顆粒水和剤、パスポート顆粒水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

(5) 有袋栽培におけるすす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあげ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行い、その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、有効な薬剤に

よる特別散布（実洗い）をしてから行う。

(6) 腐らん病対策

腐らん病は感染してから1～2年後に発病するため、適切な対策を速やかに講じることが重要である。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、削り取り法か泥巻き法のいずれかの処置を適切に行う。胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採し、速やかに園外へ搬出する。

粗皮感染による胴腐らんの発生が多い園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(7) 黒星病対策

一部園地で発生が見られていることから、自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(8) 斑点落葉病対策

高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、「7月半ば」にポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ただし、ポリオキシシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(9) 炭疽病対策

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(10) 褐斑病対策

前年に発生が多かった園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(11) ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表（7月半ば）

薬剤名	倍数	使用時期	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1,500倍	収穫21日前	1回	○	×
バロックフロアブル	2,000倍	14日	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	2,000倍	7日	1回	○	○
コロマイト乳剤	1,000倍	前日	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日	2回	○	×
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(12) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(13) リンゴコカクモンハマキ対策

幼虫の発生が多い園地では、「7月半ば」にジアミド剤も使用する。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表（7月半ば）

薬剤名		倍数	使用時期	年間使用回数
ジアミド剤	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3回
	エクシレルSE	5,000倍	前日	3回
	テッパン液剤	2,000倍	前日	2回
	フェニックスフロアブル	4,000倍	前日	2回
	ヨーバルフロアブル	10,000倍	前日	2回

(14) クワコナカイガラムシ対策

成虫が大枝の切り口や木の空洞部周辺に集まるので、見つけ次第ブラシなどでつぶす。

バンド巻きによる誘殺を実施している場合は、7月中旬頃（第1世代卵のふ化前）にバンドを除去し、適切に処分する。

(15) アブラムシ類対策

発生の多い園地では、ウララDF4,000倍、キラップフロアブル4,000倍、トランスフォームフロアブル4,000倍、コルト顆粒水和剤6,000倍、バリアード顆粒水和剤4,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍のいずれか

も使用する。

(16) ヒメボクトウ対策

ふ化幼虫の枝幹内部への食入を防止するため、主枝、亜主枝などの大枝や主幹に対し、「7月半ば」にジアミド剤（リンゴコカクモンハマキの項を参照）も使用する。

(17) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいのでカルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

(1) 支柱入れ、枝吊り (2) 草刈り (3) わい性台樹の交差分枝処理

4 今後の作業（7月27日～8月4日）

(1) 見直し摘果 (2) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り (3) 薬剤散布
(4) 腐らん病対策 (5) クワコナカイガラムシ対策 (6) 草刈り
(7) ビターピット防止対策 (8) 苦土欠乏対策 (9) 極早生種の収穫

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の発行は令和5年7月26日（水）の予定です。